

令和5年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表					
○ 教育方針	(1) 自らと社会の未来を見つめ、「自ら学ぶ 自ら動く」態度を身につける (2) 社会の変化に対応できる知性と実践力を身につける (3) たくましい心身を培い、品性ある言動を身につける (4) コミュニケーション力とチームとして対応できる力を身につける		《評価の基準》 4：十分達成できている （目標の8割以上が達成できている）		
○ 努力目標	(1) 進路（進学）希望実現力の涵養 (2) 課題解決能力の涵養 (3) たくましい心身、品性ある言動の涵養 (4) 人間関係・社会形成能力の涵養 (5) 教育環境及び広報活動の充実		3：おおむね達成できている （目標の6割以上が達成できている） 2：どちらかという達成できていない （目標の3割以上が達成できている）		
○ 今年度の重点課題	(1) 校内分掌組織、教職員間の協働の推進 (2) 新たな学びの環境づくりと校内研修の充実 (3) 3年間を見通した計画的・継続的なキャリア形成 (4) 「生徒を主語」とする教育活動の充実 (5) 組織的、計画的な生徒募集活動の推進		1：ほとんど達成できていない （目標の1割以下しか達成できていない） 評価…上段R5年度、中段R4年度、下段R3年度 ＊1(2)学年経営、2(2)①教科・進路指導はR5年度のみ		
評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	成果と課題
1 学校運営 全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価					
(1)重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日の教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。 ②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。 ③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.3 3.1 3.4 3.2 3.1 3.4 3.0 2.9 3.1	重点課題の設定と重点課題を踏まえた分掌・学年運営については、教職員間の協働による取組みに感謝したい。本校の教育方針等を直接説明し理解を得る機会が増えた。より一層の教職員間の協働を推進したい。
(2)学年経営	学年目標の具現化	1 学年 「自己探求」をスローガンに ①豊かな感性を育む指導の充実 ②自律した生活習慣を確立させる ③進路指導を充実させる 2 学年 「向き合う」をスローガンに ①豊かな感性を育む指導の充実 ②自律した生活習慣を確立させる ③進路指導の充実 3 学年 「心に緑を ひとに思いやりを」をスローガンに ①豊かな感性を育む指導の充実 ②生徒指導及び生徒支援の充実 ③自己実現に向けて最後まで諦めない進路指導の充実	①豊かな感性を育む指導の充実 授業・部活動・学校行事・学級活動を通して人間性の陶冶を図る。 ②自律した生活習慣を確立させる 面談の充実を図りながら、保護者との連携を密にし、生徒が基本的な生活習慣を確立できるよう支援する。 ③進路指導を充実させる 平日2時間以上の家庭学習を徹底させるとともに、SSHや進路学習を通して、将来の進路選択に対する視野を広げさせる。 ①授業や部活動・学校行事、挨拶・掃除、体験活動を通して、豊かな情操と自己肯定感を育む。 ②面談の充実を図り、健康的な生活に努めさせ、安易な遅刻・欠席を防止する。また、集団生活におけるマナーを身につけさせ、社会性を育む。 ③家庭学習習慣を定着させ、主体的な学習態度を育む。また、SSHや進路学習を通して、将来の進路選択に対し明確な目標を持たせる。 ①授業や部活動・学校行事、挨拶・掃除、体験活動を通して、豊かな情操と思いやりの心を育てる。 ②面談や観察によって生徒理解を深め、生徒の心身の健康的な生活の確立を図る。 ③授業を第一にした学力の向上を図る。また、面談の充実を図り、生徒の主体的な学習を促す。	3.1 3.0 2.8 3.2 3.0 2.7 3.4 3.7 3.7	全体的には落ち着いた学校生活を送っているが、時間を守る、期限を守るなど、基本的なことへの不十分さを感じる。学習面については、入学時の学力から考えれば、生徒たちは頑張っている様子であり、今後ともそれとしっかりと支援していきたいと考えている。 ①沖縄修学旅行を無事実施することができた。生徒たちは感じるが多かった。 ②ほとんどの生徒が規律を守り落ち着いた生活を送っている。時間の管理を徹底させる指導を継続的に行っていく。 ③家庭学習の定着をはじめ、進路決定のための主体的な学習態度を育む指導をまだまだ必要とする。 ①部活動や体育祭などの学校行事を通して、最高学年としての生徒の自覚や態度が見られた。 ②心身の不調のため、欠席する生徒が一定数見られた。関係の先生方と連携をとりながら、卒業に向けて支援していきたい。 ③年間を通した担任の先生方のきめ細やかな面談のもと、生徒が主体的に進路目標を設定することができた。最後まで生徒全員の進路実現に向けて取り組んでいきたい。

2 教育活動		教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価			
(1)教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	3.1 3.1 3.3	来年度入学生からの教育課程の変更を生徒の状況を踏まえて決定することができた。
(2)学習・進路指導の編成					
①教科・進路指導		国語科 学習指導の充実と国語力の向上に努める。	①授業担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.8 3.6 3.2	授業担当者間の連携を密に取ることができた。数値目標を掲げて指導に取り組むも実現が厳しいところがあった。生徒の実態に即した指導に注力したい。
		地歴・公民科 進路実現のために、個々の生徒に対応した学習指導の充実と学力向上に努める。	①生徒間での傾聴・対話・議論・発表などを通して、社会的事象における課題を設定し、その解決策を探究することができる授業デザインづくりに取り組む。 ②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題を提供し、確実に仕上げるまで指導する。 ③令和7年度共通テスト(新課程)の「手引書(地歴公民科)」を作成し、受験該当学年と共有しつつ活用する。	3.5 3.0 2.5	①については、初任者研修をもとに教科会などで議論することができた。初任者以外も参考に、授業での場面設定に取り入れる。 ②については、成績評価の40%部分に繋がる。毎年ストックし、より効果的な課題が提供できるようにしたい。 ③については一応作成し、2学年と共有することはできたが、試作の段階で終わった。次年度は年度当初からの活用が不可欠のため、今年度中の完成を目指す。
		数学科 ①自ら学びに向かう学習習慣の確立 ②学年に応じた数学的な見方や考え方の習得 ③生徒の希望進路に応じた指導体制の確立	①「わかる授業」、「考えさせる授業」「協働的な授業」等を展開するとともに、授業と家庭学習を連動させた細やかな指導を行う。 ②年間指導計画を作成し、計画的な教科指導を展開するとともに、考査等の短期目標に合わせた復習や振り返りを行う。 ③コース別授業や習熟度別授業等により、生徒の希望進路に幅広く対応した授業や個別指導を行う。	3.4 3.8 3.6	①さまざまな授業展開を試みたが、家庭学習習慣の定着には至らなかった。 ②年間指導計画の作成と計画的な学習は意識して行ったが、振り返りまでは十分にできなかった。 ③授業や補修等でコース別・習熟度別などの取組や個別指導を行ったが、指導体制の確立には至らなかった。
		理科 学習指導の充実と生徒の科学的思考力の育成に努める。	①新課程の研究を継続して行い、教科指導力を高める。 ②授業や課題研究活動において、生徒に主体的に実験・観察に取り組ませ、教科・科目特有の見方・考え方を習得させる。 ③生徒自身に実験・観察結果の処理・考察をさせることにより、探究の技法を身につけさせ、生徒の課題解決力を高める。	4.0 3.0 3.0	実験・観察の意義・目的を生徒が自分で考えて意識させることで、実験操作が円滑に進んだことは評価できる。処理・考察に関しては個人差があり、生徒の課題解決力を総合的に高める工夫が必要。
		英語科 学習指導の充実と実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的かつ継続的に課題・提案を与え、主体的に学習する態度の育成につなげる。 ③学力向上に向けて到達目標を掲げ、その達成に向けて組織的に取り組む。 ④各科目の授業において、4技能のバランスの取れた実践的コミュニケーション能力を育成する。	3.5 2.8 2.5 2.8	①授業を効率的に進めるために、ICT 機器が役に立っている。さらに有効活用を進めていきたい。 ②どのような英語力を伸ばしたいのかを明確にし、適切な課題を与えていきたい。 ③到達目標が明確に示されているのかどうかが規準となる。誰が見てもわかりやすく、どんな生徒でも達成できるものが必要である。 ④4技能については、取り組みに過不足があり、バランスが取れているとは言えない面がある。
		保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質や緊張感を高める工夫を行う。 ②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。 ③受験(体育系)指導の充実。	4.0 4.0 3.5	技能以外の生徒評価の充実を図るため、評価方法についても連携し、質を高めていきたい。

			芸 術 科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組み専門的に一定程度以上の能力を持たせる。	3.2	カリキュラム通りに学習を進める事ができた。
				②決められた期間内に課題(歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成)ができるようにする。	3.6	
			家 庭 科 学習指導の充実と実生活への活用 に努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。	3.0	乳幼児ふれあい体感を今年度も実施しなかった。 課題の提出方法のデジタル化を充実させた。 学校家庭クラブ活動や災害教育を昨年度新しくしたものに工夫を加えた。
				②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。	3.0	
				③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。	3.0	
				④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。	3.0	
				⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	4.0	
				情 報 科 3年間を見通した計画的・継続的な取組により、生徒個人のキャリアプランの実現を図る。	①コンピュータの科学的な理解及び知識の習得	
			②情報社会に主体的に参画する態度の育成		3.0	
			③情報社会に対応する能力の育成		3.0	
			②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の支援に努める	生徒会活動や、文化祭・体育祭など諸行事で、生徒が自主的に活動し、リーダーとなる人材を育成する。
(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な発進と事業内容の充実	①SSH事業の円滑な運営	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める。	3.1 3.2 3.4	第Ⅲ期の研究開発課題に沿って、様々な企画を新規に展開した。SSHと通常授業の連携など分掌だけでは物理的・人的にも及ばないところが多く、今後一層の他分掌との協働・連携を進めていくとともに、職員研修や担当者打合せで目的・目標等共通の理解を図るよう努めたい。	
	②研究開発の推進	②SSH事業3期目の目的に照らしたカリキュラムの研究開発を推進する。	3.2 3.1 3.4			
	③研究成果の普及活動の充実	③SSHの活動や成果を学校のHPを介して保護者や中学校への情報発信に努める。	3.2 3.1 3.4			
(4)生徒指導	品位ある南高生の育成と安全な教育環境の充実	①元気のよいあいさつとその場にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心を身につけている	①・登校時の挨拶指導の実施 ・学校生活における基本マナーの周知徹底(掲示)	3.1 3.2 3.2	・登校時間の遵守徹底が不十分であった。大体固定化された生徒が遅刻する。 ・掃除については、主体的な取組が課題であるが、掃除場所の精選も進めていく。 ・机・ロッカーの整理の呼びかけをもっと指導部で行い、学年、学級で動いてもらうことが必要。 ・授業開始2分前着席は先生方のお陰と生徒の意識向上のせいであまりよくなってきた。 ・ある程度の指導ができないと、たくましい心をつけさせるのは難しいか。 ・生徒指導便りを有効に使い、伝えるべきことを保護者に伝えたい。	
			②・職員監督の下、掃除の徹底 ・机・ロッカーの整頓 ・貴重品の管理	2.7 2.7 2.9		
			③・違反についてはその場で指導 ・容儀検査の実施と事後指導徹底	2.8 2.8 3.1		
			④・授業開始2分前着席と集会時の5分前集合 ・下校時刻の遵守徹底	2.8 2.6 2.8		
			⑤・バスマナー指導 ・生徒理解に努め、自己有用感を高める指導を心がけ、人と関わる力の土台をつくる(生徒指導研修会の実施等) ・携帯端末使用ルールの遵守徹底(全般) ・毎月生徒指導便りを発行し、保護者と情報の共有化を図る ・生徒会、生徒支援部との連携	2.9 2.8 3.0 3.1 3.2 3.3		
(5)健康・安全指導	健康や安全に対する意識や態度の育成	本校の教育方針や重点項目にそって、健康・安全指導の充実に努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保持・増進を図らせる。	3.0 2.8 3.2	年間を通じて体調不良を訴える生徒が多く、保健室利用も多かった。特定の生徒が保健室を利用する傾向がみられる。	
			②教育活動時の安全保持に努める。また安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神を高める。	3.2 3.1 3.4		

(6)心の教育	他者を思いやる心や命を大切に する態度の育成	教育活動全体の中で心の教育の 充実にも努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の 連携をさらに密にする。 ②スクールカウンセラーや外部機関等を 積極的に活用し、予防に重点を置いた教育 相談体制の充実を図る。	3.6 3.4 3.8 3.5 3.5 3.7	毎回のSC情報・助言を管理 職・学年主任・担任と共有し支 援の方向を決め、関係機関との 連携も図ってきた。対教員が理 由で不適応を訴える生徒が増え たように思う。
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全員部活制を生かし、 個々の生徒の活動の継続に努め る。	部活動の練習環境を充実させるとも に、練習時間と学校下校時間を遵守さ せ、「学習と部活動を両立」させる。	3.0 2.9 3.0	練習時間の遵守と下校時間の 遵守をこれからも呼びかけてい きたい。
3 教育環境 学校の置かれている教育環境に関わる教育成果の評価					
(1)施設・設備の管 理	施設・設備の適切 な管理に努め、維 持補修、改修工事 を計画的に実施す る。	施設・設備の維持・補修と安全 確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止 に努める。 ②施設の維持補修及び改修工事を計画的 に実施する。	3.3 3.3 3.3 3.3 3.3 3.4	今年度の工事は円滑に進める ことができています。厳しい予算 の中ではあるが、引き続き安全 ・安心な施設の維持に努めてい きたい。施設・設備の不具合に ついては、すぐに知らせていた でいるので助かっている。 引き続き、迅速な対応に努めたい。
(2)情報化推進 *情報担当職員	教育活動のIT化	IT関連の施設・設備の充実と 教育活動分野への活用促進に努 める。	①・情報機器等の充実した整備を行う。 ・校内LANの生徒への活用を推進す る。 ②校務処理の効率化と職員のICT活用能 力の向上に努める。	3.1 3.2 3.5 3.1 3.2 3.4	一人一台端末が使用される場 面が増えてきている。より多く の授業や課外活動等での活用を 進めていく必要がある。 無線LANが利用できる教室の整 備に努めていきたい。
4 開かれた学校 関連機関や団体との連携における教育成果の評価					
(1)保護者との連携	PTA活動の充実	PTA総会の盛会とPTA活動 の活性化に努め、学校と家庭間 の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つため の情報発信をこまめに行う。 ②PTA総会の内容の工夫を行うなどで 、出席率を向上させる。	3.1 3.1 3.3 3.0 2.9 3.1	4年ぶりにPTA総会を集合 形式で開催することができたが 以前と比べると出席率は減少し た。強歩行大会時のうどんの炊 き出しなど、集まったの活動を 再開することができた。
(2)地域や関係機 関との連	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用 して、教育効果を高める。	3.2 2.9 3.3	平和学習や未来デザインスク ールなどで外部講師に来ていた だいた。生徒の感想から、教育効 果の高さを感じた。
5 生徒の教育成果 校訓の具現化（知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動全般の評価）					
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気 魄と情熱に燃える 生徒の育成 ・親和と友愛に充 ち礼節を重んじる 生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に 、他者を思いやる心や奉仕する 心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボ ランティア活動に、積極的に取り組ませ る。 ②生徒会専門委員会や執行部の活動とし て、あいさつ運動やバスマナー指導を行 い、品性のある生徒を育成する。	3.1 2.8 3.4 2.9 3.0 3.4	生徒は真面目に取り組んで いるが、学習や部活動、SSHと のバランスを取りながら生徒会 活動を行うことの難しさを感じ た。
(2)学力の向上	・真理と正義を求 め一意学道に精進 する態度を養う。 ・すぐれた知性と 実践力を養い、積 極・創造の気魄を 振起する。	・入学後の導入をスムーズにし 、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探 求し、授業の質の向上を目指す 。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校 生活へのスムーズな移行を実現し、基礎 学力の向上を図る。 ②公開授業や研究授業を実施して教員の 指導力向上を図る。 ③進路実現100%を目指す。	2.9 2.9 3.1 3.1 3.2 3.5 3.2 3.2 3.4	授業改善を進めながら、学習 規律の確立に努めたい。 授業を見て学び合う雰囲気や 仕組をさらに醸成していく必要 がある。研修部主催の授業研究 に進路指導としてかわりをも めるべきだった。 理系の生徒の文系への転向 が、多かった。
(3)健康や体力	健康で明朗、品位 ある生徒の育成	起立ある行動を目指すことで、 人間力の成長だけでなく、けがの 防止も図る。	①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加 するを通して、明るく、たくましい 心身を培う。 ②行動体力を高めるとともに、防衛体力 をつけ、病気やケガに強い身体作りを行 う。	3.0 3.1 3.6 3.0 3.0 3.2	部活動を通じ、生活面の改善 を含めて目標達成に向け取り組 んでいきたい。生活面では部顧 問からの指導がもっと欲しいと 感じるがあった。

重点課題に関しては、昨年度と比べ評価が上がっており、その具現化のための方策が各分掌や学年の経営方針に意識的に盛り込まれ、協働的に教育活動がなされていることに感謝したい。また、特別活動に関する項目は教育活動が緩和されたことにより生徒が自主的に活動してくれたことで評価が上昇している。各教科の自己評価については概ね3以上であり、達成できていない項目については今後も継続してその課題解決に取り組んでいく。近年、急速に変化していく教育環境に対応するためにも、思いきった教育活動全般の見直しや更なる業務のスリム化・効率化への取組を加速させ、改善を図るための時間を確保する必要がある。